



インストールマニュアル

astroll

—第1.0版—

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

- ・ LinuxはLinus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Red Hatは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Apache、Apache Tomcat、Tomcatは、Apache Software Foundationの登録商標または商標です。
- ・ Ansibleは、Red Hat, Inc.の登録商標または商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

なお、® マーク、TMマークは本書に明記していません。

astroll の正式名称は「astroll IT Automation」になります。

目次

はじめに.....	3
1 システム構成.....	5
1.1 連携実行機能.....	5
1.2 動作環境条件.....	6
2 astroll 環境構築手順	7
2.1 astroll環境構築手順の概要.....	7
2.2 astroll環境構築ツール一覧.....	10
2.3 astroll環境構築フロー	11
2.4 astrollインストーラーの単体実行.....	19
2.5 手動でのastroll環境構築	19
3 動作確認.....	20
3.1 astrollの動作確認	20
4 astroll アンインストール手順	23
4.1 環境削除手順の詳細.....	23

(別冊)

RHEL6.x_環境構築マニュアル

RHEL7.x_環境構築マニュアル

はじめに

本書は、astroll の環境構築、インストール、アンインストールについて説明します。

関連マニュアル

- ・ 本製品におけるマニュアル構成は以下になります。
- ・ astroll 環境サーバを構築する OS に合わせて、環境構築マニュアルを参照ください。
- ・

No.	マニュアル名	説明
1	【本書】 インストールマニュアル astroll	astroll のシステム構成、動作環境と、環境構築、インストール手順の概要を説明したドキュメントです。
2	RHEL6.x_環境構築マニュアル	インストールマニュアルの別冊資料です。 RHEL 6.x 環境への環境構築、インストール手順を説明します。
3	RHEL7.x_環境構築マニュアル	インストールマニュアルの別冊資料です。 RHEL 7.x 環境への環境構築、インストール手順を説明します。
4	ファーストステップガイド	astroll の全体の概要、機能、操作の概要について説明したドキュメントです。astroll を初めて利用される方は、本ドキュメントで全体の操作の流れを参照してください。
5	利用手順マニュアル astroll 基本コンソール	astroll の基本機能である基本コンソールの機能、操作方法について説明したドキュメントです。機器情報の登録、ワークフローの作成、実行などについて説明しています。各 Driver をご利用の方は、本ドキュメントも合わせて参照してください。
6	利用手順マニュアル astroll 管理コンソール	astroll の管理機能である管理コンソールの機能、操作方法について説明したドキュメントです。 ユーザー管理、権限管理、astroll システムの設定機能などを説明します。
7	利用手順マニュアル astroll Ansible driver	Ansible driver の機能、操作方法について説明したドキュメントです。
8	利用手順マニュアル astroll Ansible driver 別紙 Ansible 利用ガイドライン astroll 追加ルール	Ansible driver 利用手順マニュアルの補足資料です。 astroll から Ansible を利用するときの注意、制限事項と、エラーメッセージとその対処方法などについて説明します。
10	利用手順マニュアル astroll Cobbler driver	Cobbler driver の機能、操作方法について説明したドキュメントです。
11	構成管理メニュー作成ガイド	独自の構成管理画面を作成し、astroll のメニューに追加する手順を説明したドキュメントです。
12	利用手順マニュアル astroll 構築資材管理機能	構築資材管理機能の利用方法を説明したドキュメントです。astroll のメニューから各種文書、コンテンツを管理することができます。
13	利用手順マニュアル astroll パラメータシート作成機能	パラメータシート作成機能の利用方法を説明したドキュメントです。代入値自動登録設定で利用できるパラメータシ

No.	マニュアル名	説明
		ートメニューを作成することができます。
14	利用手順マニュアル astroll ホストグループ機能	ホストグループ機能の利用方法を説明したドキュメントです。対象機器を論理的な単位で管理することができます。
16	利用手順マニュアル astrollOpenStack driver	OpenStack driver の機能、操作方法について説明したドキュメントです。
18	利用手順マニュアル astrollDSC driver	DSC driver の機能、操作方法について説明したドキュメントです。
19	利用手順マニュアル astrollAnsibleTower driver	AnsibleTower driver の機能、操作方法について説明したドキュメントです。

1 システム構成

1.1 連携実行機能

astroll では、さまざまな構築ツール等と連携することができ、astroll では以下のツールとの連携機能をサポートしています。

表 1.1-1 連携機能ツール一覧

ドライバ名	連携ツール (オーケストレーター)	機能	内容	環境構築ツールでの連携ツールインストール
Material	git	構築資材管理	標準構築ツールに登録された資材の 払出 / 払戻と、Git を介して対象資材 のバージョン管理を行います。	○
Create_param	-	パラメータシート作成	パラメータシート (Web メニュー) を 作成・管理します。	-
Hostgroup	-	ホストグループ	ホスト群を論理的な単位 (機能・役割) でまとめたグループにして、投入する パラメータを管理します。	-
Ansible ドライバー	Ansible	システム構築	Red Hat 社が提供する OSS の PF 構築 ツールです。 Playbook と呼ばれる構築コードをもと に、ネットワークで接続された機器に対 して、ソフトウェアのインストール、各種 設定、ファイル転送、パッチの適用など を行います。	○
Cobbler ドライバー	Cobbler	OS インストール	OSS のインストール自動化ツールです。 あらかじめ作成したテンプレートをもとに、 ネットワークで接続された機器に対して、 OS のインストールを行うことができます。	○
OpenStack ドライバー	OpenStack	仮想システム構築	OSS のクラウド環境構築ツールです。 クラウド環境に対して、仮想マシン、ス トレージ、ネットワークなどを構築する ことができます。	×
PowerShell DSC ドライバー	PowerShell DSC	システム構築	Microsoft 製の PF 構築ツールです。 Windows インフラ環境にて、サーバの ユーザー作成、ソフトウェアのインス トールなどを行うことができます。	×
AnsibleTower ドライバー	AnsibleTower	システム構築	PF 構築自動化ツールである Ansible に アクセスコントロール、ジョブスケ ジューリング、タスクの可視化などの 機能を拡張した管理プラットフォーム です。	×

※「環境構築ツールでの連携ツールインストール」の対象となる機能は、astroll サーバとコンソリデーションができ、且つ yum リポジトリから取得できる連携ツールです。

※「環境構築ツールでの連携ツールインストール」が「×」の連携ツールは、個別にインストールしてください。

1.2 動作環境条件

astroll をご利用いただくには、以下の環境が必要となります。

(サーバ環境)

表 1.2-1 astroll サーバ動作環境要件

OS	Red Hat Enterprise Linux	6.6 以上
	CentOS	6.6 以上

CentOS 7.x の Everything ISO の媒体から「最小限のインストール」モードでのインストールを推奨します。本媒体、インストールモードからインストールした場合は、本マニュアルの手順以外に、追加のライブラリ、ツールのインストールの必要がありません。

(クライアント PC 環境)

表 1.2-2 クライアント PC 動作要件

OS	Windows	Windows7 以上
ソフトウェア	Excel	MS Office 2007 以上
ブラウザ	Internet Explorer	11 以上
	Firefox	41 以上
	Microsoft Edge	20 以上

(サーバーの推奨スペック)

表 1.2-3 サーバ 推奨スペック

CPU	Xeon(2GHz 以上)×2Core
メモリ	4GB 以上
最低動作ディスク容量	2GB 以上

2 astroll 環境構築手順

2.1 astroll 環境構築手順の概要

astroll 環境構築、インストール手順の流れを説明します。

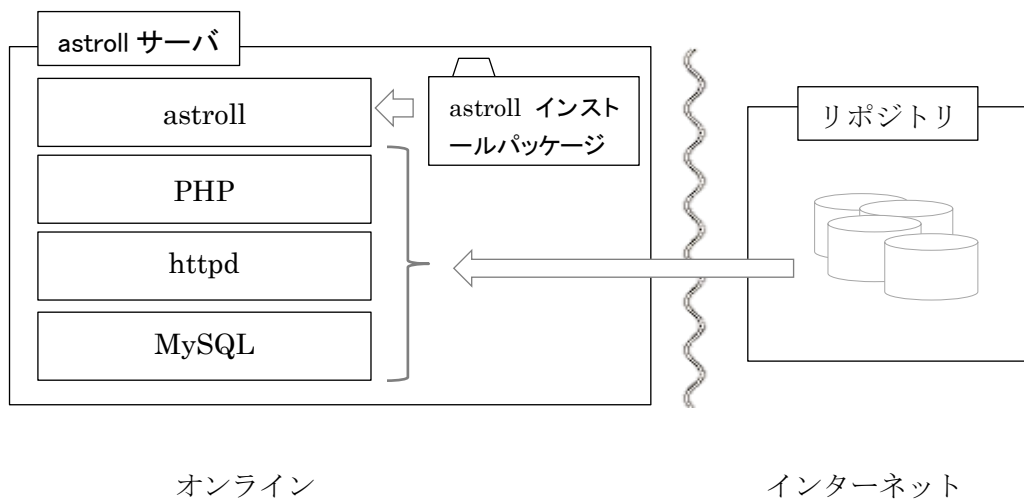
astroll 環境構築には「オンラインインストール」「オフラインインストール」があります。

オンラインの定義は以下を参照してください。

[2.1.3 オンライン環境の前提条件](#)

2.1.1 オンラインインストール

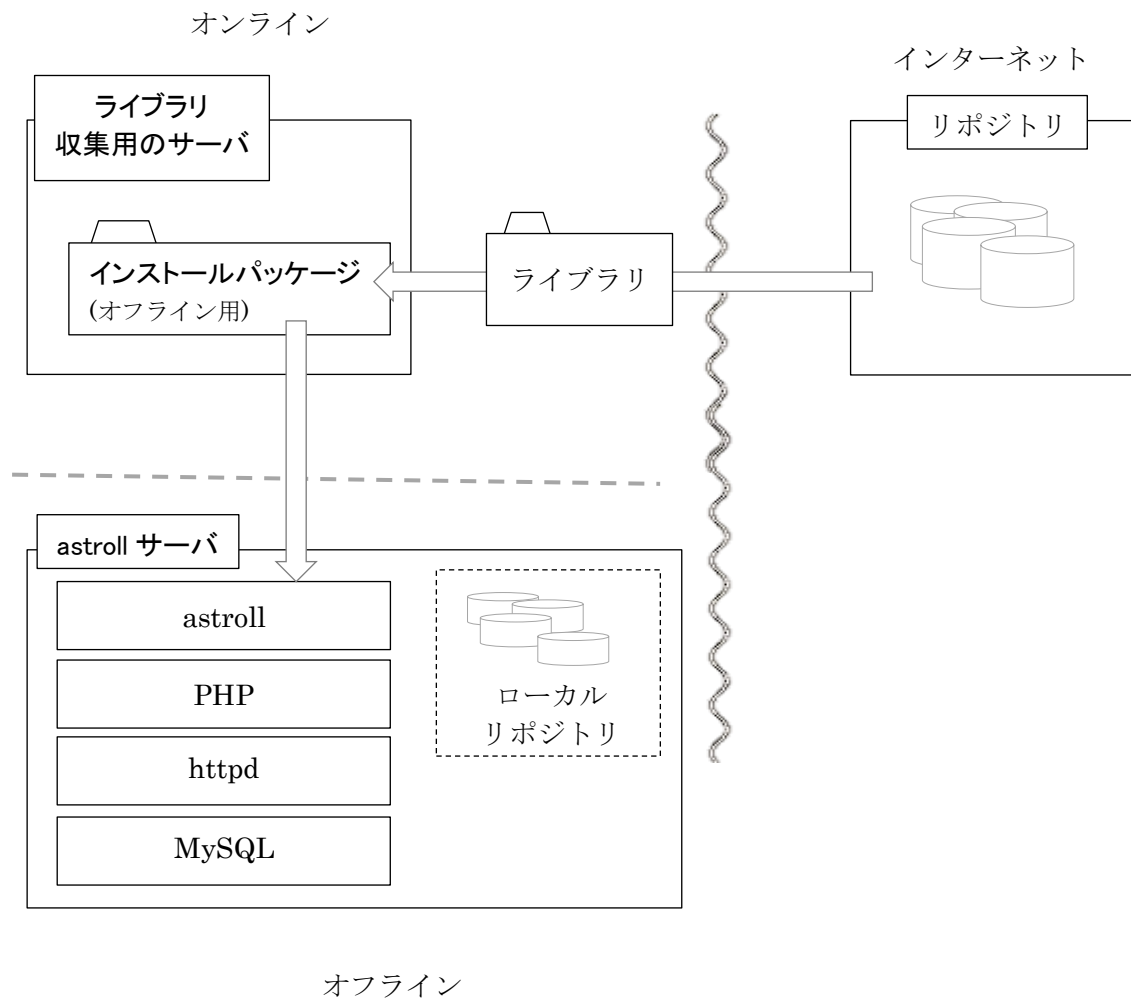
astroll サーバがオンライン環境の場合、インターネット経由で必要なライブラリのインストールと、astroll インストーラーを実行して環境構築を行います。



2.1.2 オフラインインストール

astroll サーバがオフライン環境(オンライン環境ではない)の場合、以下の手順で環境構築を行います。

- ・ライブラリ収集用のサーバ(オンライン)にてインターネット経由で必要なライブラリを収集し、astroll インストールパッケージとライブラリを一つに圧縮し、インストールパッケージ(オフライン用)を作成します。
- ・記憶媒体等で astroll サーバにインストールパッケージ(オフライン用)を移動します。
- ・インストールパッケージ(オフライン用)からローカルリポジトリを作成し必要なライブラリのインストールと astroll インストーラーの実行を行います。



2.1.3 環境構築スクリプトを利用する場合の前提条件

■ オンライン環境での前提条件

オンライン環境での作業をする場合(ライブラリ収集、オンラインインストール)は以下のリポジトリが参照できる状態である必要があります。

表 2.1.3-1 オンライン作業にて参照するリポジトリ一覧

OS	リポジトリ
RHEL7	http://ftp-srv2.kddilabs.jp/Linux/distributions/fedora/epel/7/x86_64/Packages/e/epel-release-7-11.noarch.rpm
	https://repo.mysql.com/mysql57-community-release-el7-11.noarch.rpm
	http://rpms.remirepo.net/enterprise/remi-release-7.rpm
RHEL6	http://ftp-srv2.kddilabs.jp/Linux/distributions/fedora/epel/6/x86_64/Packages/e/epel-release-6-8.noarch.rpm
	https://repo.mysql.com/mysql57-community-release-el6-11.noarch.rpm
	http://rpms.remirepo.net/enterprise/remi-release-6.rpm
CentOS7	epel-release
	https://repo.mysql.com/mysql57-community-release-el7-11.noarch.rpm
	http://rpms.remirepo.net/enterprise/remi-release-7.rpm
CentOS6	epel-release
	https://repo.mysql.com/mysql57-community-release-el6-11.noarch.rpm
	http://rpms.remirepo.net/enterprise/remi-release-6.rpm

■ ライブラリ収集スクリプトを実行する場合の前提条件

ライブラリ収集スクリプトを実行する場合は OS にライブラリが何もインストールされていない状態である必要があります。

※ 「yum install -downloadonly」と「yumdownloader」コマンドでライブラリを収集する為、既にインストール済みのライブラリはダウンロードできなくなります。

2.2 astroll 環境構築ツール一覧

astroll 環境構築ツール一覧は以下となります。

表 2.2-1 astroll 環境構築時、必要なファイルの格納場所

説明	ファイル	格納先
ライブラリ収集スクリプト	astroll_gather_library.sh	/（インストール資材展開先）/ astroll_install_package/install_scripts/
環境構築ツール （オフラインインストール用）	astroll_builder_offline.sh	/（インストール資材展開先）/ astroll_install_package/install_scripts/
環境構築ツール （オンラインインストール用）	astroll_builder_online.sh	/（インストール資材展開先）/ astroll_install_package/install_scripts/
セッティングファイル	astroll_builder_setting.txt	/（インストール資材展開先）/ astroll_install_package/install_scripts/
astroll インストーラー	astroll_installer.sh	/（インストール資材展開先）/ astroll_install_package/install_scripts/
アンサーファイル	astroll_answers.txt	/（インストール資材展開先）/ astroll_install_package/install_scripts/

2.3 astroll 環境構築フロー

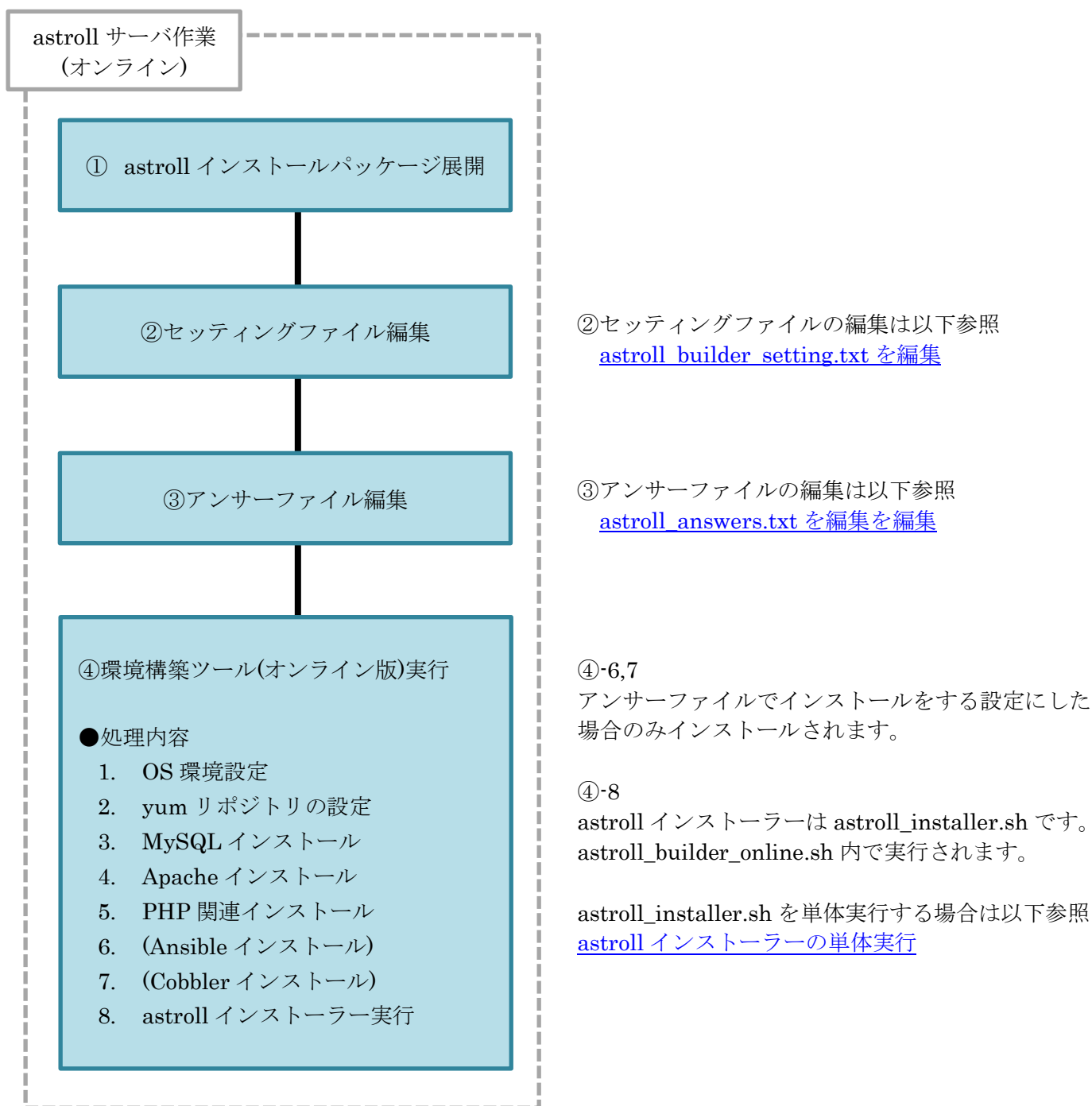
astroll 環境構築のフローになります。

具体的な作業内容、コマンド等は以下のマニュアルをご確認ください。

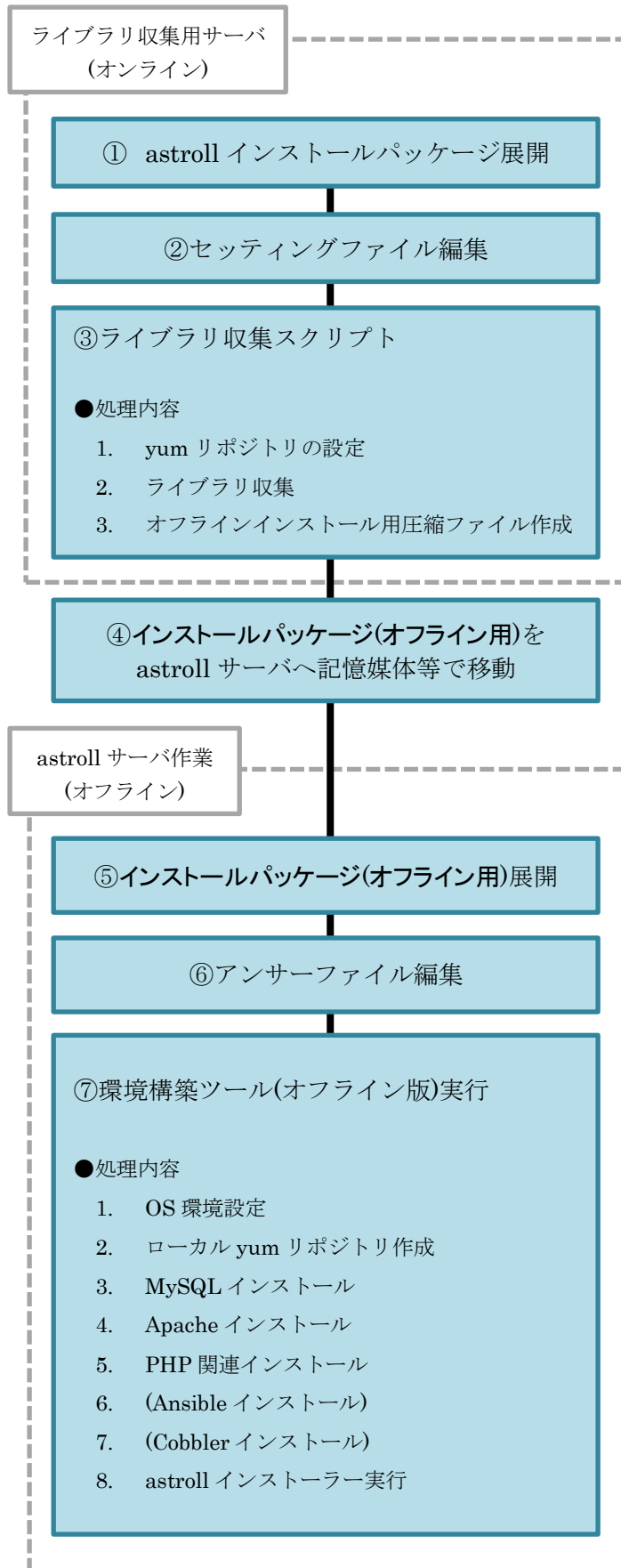
RHEL 6, CentOS 6 系の場合: 「RHEL6.x_環境構築マニュアル」シート/astroll インストール手順書(自動)

RHEL 7, CentOS 7 系の場合: 「RHEL7.x_環境構築マニュアル」シート/astroll インストール手順書(自動)

2.3.1 オンラインインストール



2.3.2 オフラインインストール



ライブラリ収集用サーバは astroll サーバと同じ OS をご用意ください。

②セッティングファイルの編集は以下参照
[astroll_builder_setting.txt](#) を編集

③-3

収集したライブラリと astroll インストールパッケージを圧縮した**インストールパッケージ(オフライン用)**が作成されます。

ファイルパス：

/ (インストール資材展開先)/ astroll_VerX.X_offline_YYYYMMDDhhmmss.tar.gz

④”③”の実行で生成された**インストールパッケージ(オフライン用)**を astroll サーバに移動します。

⑤アンサーファイルの編集は以下参照
[astroll_answers.txt](#) を編集を編集

⑦-6,7

アンサーファイルでインストールをする設定にした場合のみインストールされます。

⑦-8

astroll インストーラーは astroll_installer.sh です。

astroll_builder_online.sh 内で実行されます。

astroll_installer.sh を単体実行する場合は以下参照

[astroll インストーラーの単体実行](#)

2.3.3 セッティングファイル(astroll_builder_setting.txt)の編集方法

astroll 環境構築を設定を行うセッティングファイル(astroll_builder_setting.txt)の編集方法を以下に示します。

表 2.3.3-1 セッティングファイル、設定パラメータ

種目	必須	初期値	説明
linux_os	○	-	astroll サーバの OS ("CentOS6","CentOS7","RHEL6","RHEL7")
redhat_user_name	astroll サーバの OS が RHEL の場合 必須	-	redhut アカウントのユーザー名
redhat_user_password	astroll サーバの OS が RHEL の場合 必須	-	redhut アカウントのパスワード
pool_id	astroll サーバの OS が RHEL の場合 必須	-	redhut アカウントのプール ID
server_address ※1	cobbler をインストールする場合必須	-	Cobbler の settings ファイルに設定する astroll サーバ(Cobbler サーバ)の IP アドレス
default_password ※2	cobbler をインストールする場合必須	-	Cobbler の settings ファイルに設定する OS インストール対象サーバの root パスワード ※入力した値をハッシュした値が settings ファイルに設定されます。
cobbler_ip ※3	cobbler をインストールする場合必須	-	dhcp.template の subnet に設定する IP アドレス
cobbler_subnet ※4	cobbler をインストールする場合必須	-	dhcp.template の netmask に設定する IP アドレス
cobbler_gateway ※5	cobbler をインストールする場合必須	-	dhcp.template の option routers に設定する IP アドレス
cobbler_dns ※6	cobbler をインストールする場合必須	-	dhcp.template の domain-name-servers に設定する IP アドレス
dynamic_address_min ※7	cobbler をインストールする場合必須	-	dhcp.template の range dynamic-bootp に設定する IP アドレス(最小値)
dynamic_address_max ※8	cobbler をインストールする場合必須	-	dhcp.template の range dynamic-bootp に設定する IP アドレス(最大値)

Cobbler に関連する設定値は以下のように設定されます。

ファイル : /etc/cobbler/settings

```
~~~~~  
next_server: 127.0.0.1 ※1  
server: 127.0.0.1 ※1  
default_password_crypted sample_password ※2  
~~~~~
```

ファイル : /etc/cobbler/dhcp.template

```
※3      ※4  
subnet 192.168.1.0 netmask 255.255.255.0 {  
    option routers          192.168.1.5;  ※5  
    option domain-name-servers 192.168.1.1; ※6  
    option subnet-mask      255.255.255.0; ※4  
    range dynamic-bootp     192.168.1.100 192.168.1.254;  
    default-lease-time      21600;        ※7          ※8  
    max-lease-time          43200;  
    next-server              $next_server;  
    class "pxeclients" {  
        match if substring (option vendor-class-identifier, 0, 9) =  
"PXEClient";
```

図 2.3.3-1 セッティングファイルのサンプル

```
# Select Operation System. ("CentOS6","CentOS7","RHEL6","RHEL7")
# e.g) linux_os:RHEL7
linux_os: RHEL7

#####
#Only when you select linux_os with RHEL6 or RHEL7

# Enter the Red Hat user name and user password
# e.g) redhat_user_name:sample
redhat_user_name:sample

# e.g) redhat_user_password:sample_password
redhat_user_password: sample_password

# e.g) pool_id:samplePoolID
pool_id: samplePoolID

#####
#Only when you install cobbler driver

#Cobra server IP address
server_address:10.10.10.10

#Password set for OS installation target server
default_password:sample_password

#DHCP setting
#Network address of cobbler server
cobbler_ip:10.10.10.0

#subnet mask of cobbler server
cobbler_subnet:255.255.255.0

#default gateway of cobbler server
cobbler_gateway:0.0.0.0

#DNS server IP address (Separate space if more than one)
cobbler_dns:8.8.8.8

#dynamic dhcp IP address(min)
dynamic_address_min:10.10.10.230

#dynamic dhcp IP address(max)
dynamic_address_max:10.70.10.250
```


2.3.4 アンサーファイル(astroll_answers.txt)を編集

astroll ではインストールする時に、連携するドライバーのインストールの有無を設定できます。
astroll のインストール設定を行うアンサーファイルを事前に作成してください。

アンサーファイルでは、以下の項目を設定できます。

初期値は ita_base 、ansible_driver、createparam のインストール設定が yes となっています。
インストールしない場合は、設定値を no としてください。

表 2.3.4-1 アンサーファイル 設定パラメータ

種目	必須	初期値	説明
install_mode	○	Install	インストールモードの設定 (インストール(Install)/アンインストール(Uninstall))
ita_directory	○	—	インストールディレクトリ astroll をインストールするディレクトリを絶対パスで指定してください。 ディレクトリが無い場合作成されます。
ita_language	○	ja_JP	astroll 画面表示の言語(日本語(ja_JP)/英語(en_US))
ita_os	○	RHEL7	astroll の OS(RHEL6 系の場合は(RHEL6)/ RHEL7 系の場合は(RHEL7))
db_root_password	○	—	MySQL の root パスワード
db_name	○	—	MySQL の DB 名
db_username	○	—	MySQL の DB ユーザー名
db_password	○	—	MySQL の DB パスワード
ita_base	○	yes	astroll 本体のインストール (“yes”のみ)
material	○	no	構築資材管理機能のインストール有無指定
create_param	○	yes	パラメータシート作成機能のインストール有無指定
hostgroup	○	no	ホストグループ機能のインストール有無指定
ansible_driver	○	yes	Ansible driver のインストール有無指定
cobbler_driver	○	no	Cobbler driver のインストール有無指定
openstack_driver	○	no	OpenStack driver のインストール有無指定
dsc_driver	○	no	DSC driver のインストール有無指定
ansibletower_driver	○	no	Ansibletower driver のインストール有無指定

図 2.3.4-1 アンサーファイルのサンプル

```
#Select install mode. ("Install" or "Uninstall")
# e.g) install_mode:Install
install_mode:Install

#Enter install directory.
# e.g) ita_directory:/ astroll
ita_directory:/ astroll

# Select language. ("ja_JP" or "en_US")
# e.g) ita_language:ja_JP
ita_language:ja_JP

# Select Operation System. ("RHEL6" or "RHEL7")
# e.g) ita_os:RHEL7
ita_os:RHEL7

# Enter the MySQL root user's password
# e.g) db_root_password:sample_root_password
db_root_password: sample_root_password

# Decide the database name, username, and password for astroll.
# e.g) db_name:sample_db_name
db_name:sample_db_name
# e.g) db_username:sample_db_username
db_username:sample_db_username
# e.g) db_password:sample_db_password
db_password:sample_db_password

# Select the target you need to install.
# yes : need
# no  : no need
ita_base:yes
material:no
createparam:yes
hostgroup:no
ansible_driver:yes
cobbler_driver:no
openstack_driver:no
dsc_driver:no
ansibletower_driver:no
```

2.3.5 環境構築ツールの実行

以下のコマンドにより、環境構築ツールを実行してください。

●ライブラリ収集

```
$(インストール資材展開先)/ astroll_install_package/install_scripts/ astroll_gather_library.sh
```

●オフラインインストール

```
$(インストール資材展開先)/ astroll_install_package/install_scripts/ astroll_builder_offline.sh
```

●オンラインインストール

```
$(インストール資材展開先)/ astroll_install_package/install_scripts/ astroll_builder_online.sh
```

■処理の確認

環境構築ツールを実行すると astroll_builder.log に処理内容が出力されます。

ログファイル格納パス：

```
$(インストール資材展開先)/ astroll_install_package/install_scripts/log/astroll_builder.log
```

2.3.6 環境構築にインストールされるライブラリの一覧

環境構築ツールを実行することでインストールされるライブラリは、以下となります。

表 2.3.6-2 環境設定時にインストールされるライブラリの一覧

インストールドライバ	ライブラリ概要	ライブラリ名
ita_base	インストールツール	yum-utils、createrepo
ita_base	astroll 共通	zip、telnet、mailx、unzip
ita_base	MySQL	mysql-community-server、expect pexpect、pywinrm
ita_base	httpd	httpd、mod_ssl
ita_base	php	php、php-bcmath、php-cli、php-ldap、php-mbstring、php-mcrypt、php-mysql、php-mysqlnd、php-pear、php-pecl-crypto、php-pecl-zip、php-process、php-snmp、php-xml
ita_base	php プラグイン	PHPExcel、Spyc、Twig、MDB2、HTTP_Request2、Auth、HTML_AJAX-beta
material	git	git
ansible_driver	ansible	ansible、python-pip
cobbler_driver	cobbler	cobbler、cobbler-web、dhcp、pykickstart、fence-agents、debmirror、xinetd

2.4 astroll インストーラーの単体実行

既にサーバが astroll インストール直前の状態に整えられている場合や、インストール済みの astroll にドライバーを追加する場合は、astroll インストーラーを単体実行します。

表 2.4-1 astroll インストーラー、アンサーファイルの格納場所

ファイル	格納先	説明
astroll_installer.sh	/(インストール資材展開先)/ astroll_install_package/install_scripts/	インストールスクリプト
astroll_answers.txt	/(インストール資材展開先)/ astroll_install_package/install_scripts/	アンサーファイル

astroll_installer.sh はアンサーファイルの内容を参照し astroll のインストールを行います。アンサーファイルの記入方法は下記を参照してください。

[astroll_answers.txt を編集を編集](#)

astroll_installer.sh を実行するには以下のコマンドを実行します。

```
.$/(インストール資材展開先)/ astroll_install_package/install_scripts/ astroll_installer.sh
```

2.5 手動での astroll 環境構築

環境構築ツールを使用せず、手作業にて astroll 環境構築をする場合は以下のマニュアルに記載されているコマンドを実行してください。

astroll 環境構築、インストール作業の所要時間は、4 時間程度を見込んでください。

RHEL 6, CentOS 6 系 : 「RHEL6.x_環境構築マニュアル」シート/astroll インストール手順書(手動)

RHEL 7, CentOS 7 系 : 「RHEL7.x_環境構築マニュアル」シート/astroll インストール手順書(手動)

3 動作確認

インストールしたドライバーについては、以下の方法で動作確認を実施します。
正しく表示されない事象が発生した場合は、各インストール作業で誤りがないか、インストール処理結果にエラーがないか、確認してください。

3.1 astroll の動作確認

3.1.1 メインメニューの表示による確認

インストール処理終了後、自端末の WindowsPC から下記の手順により、astroll システムメインメニューにアクセスし、astroll 本体、各ドライバーが正常に表示されたことを確認してください。

【astroll トップメニュー画面の接続手順】

準備作業

1. 操作端末 (Windows) の hosts ファイルへ astroll 実装サーバの IP アドレスとホスト名を設定する。

Windows7 の場合、以下の hosts ファイルとなります。

```
C:\¥Windows¥System32¥drivers¥etc¥hosts
```

hosts ファイルに以下の設定を追加してください。

```
“astroll 実装サーバの IP アドレス”    astroll-it-automation
```

例：

```
192.168.0.3    astroll-it-automation
```

2. 操作端末(Windows)に証明書のインポートをする。
証明書は astroll インストールパッケージの以下のパスに格納されています。
FFFTP、WinSCP などのツールを利用し操作端末にダウンロードします。

表 3.1.1-1 証明書格納場所

astroll サーバの OS	ファイルパス	ファイル名
RHEL 6, CentOS 6 系	/(インストール資料展開先)/astroll_install_package/ext_files_for_CentOS6.x/etc_pki_tls_certs/	astroll-it-automation.crt
RHEL 7, CentOS 7 系	/(インストール資料展開先)/astroll_install_package/ext_files_for_CentOS7.x/etc_pki_tls_certs/	astroll-it-automation.crt

Web ブラウザに証明書のインポートをしてください。

Internet Explorer11 にインポートする手順は以下

1. IE を起動し[ツール]ボタンから[インターネットオプション]へ進みます。
2. [コンテンツ]タブ内の[証明書(C)]をクリックします。
3. [信頼されたルート証明機関]タブへ進み、左下の[インポート]をクリックします。
4. 証明書のインポートウィザードが起動します。[次へ]をクリックします。
5. インポートするファイル名を指定し、[次へ]をクリックします。
6. [証明書をすべての次のストアに配置する(P)]をチェックされている状態を確認
7. [信頼されたルート証明機関]を選択し、[次へ]をクリックします。
8. [完了]をクリックします。

- ① astroll の URL へ接続します。
・URL : https:// astroll-it-automation/
- ② astroll のログイン画面が表示されましたら、指定のログイン ID、初期パスワードを入力して、[ログイン]ボタンをクリックしてください。
・ログイン ID : administrator
・初期パスワード : password
※インストール後に初めてログインした場合は、「パスワード変更画面」に遷移します。
パスワード変更画面から、初期パスワードを変更してください。

3.1.2 各メニューの表示による内容確認

自端末の WindowsPC から、以下のメニューが正常に表示されることを確認してください。

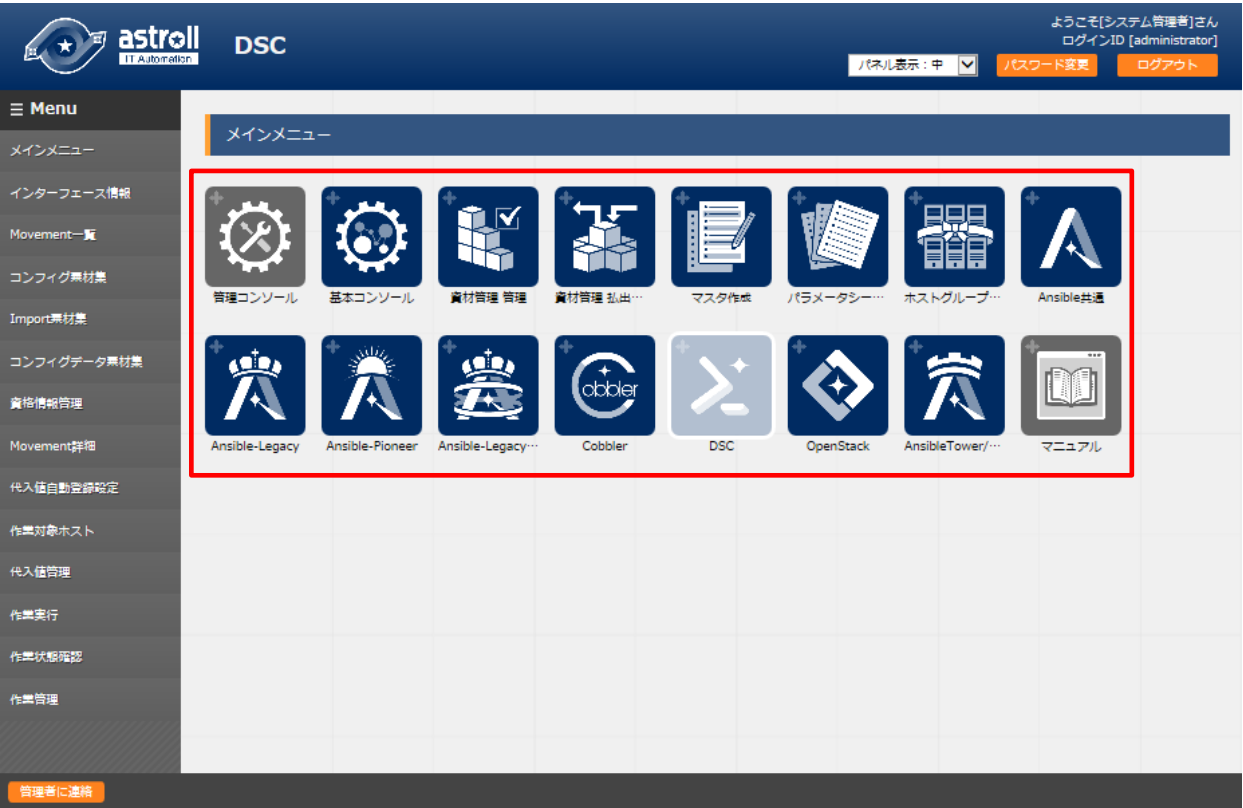


図 3.1.2-1 メニュー画面

表 3.1.2-1 機能とメニューの対比表

機能	メニュー
astroll 本体	管理コンソール
	基本コンソール
パラメータシート作成	マスタ作成
	パラメータシート作成
Ansible ドライバー	Ansible 共通
	Ansible-Legacy
	Ansible-Pioneer
	Ansible-LegacyRole
マニュアル一覧	マニュアル

※初期設定でインストールされる機能の一覧

4 astroll アンインストール手順

astroll をアンインストールする手順を記載します。

「2.1astroll 環境構築手順の概要」にて[astroll_installer.sh]で実行された処理を実行前の状態に戻す作業となります。

■注意事項

- アンサーファイルで指定したディレクトリ(ita_directory 項)及び配下のディレクトリ、ファイルが全て削除されます。
- アンサーファイルで指定した DB、DB ユーザが削除されます。RDBMS 自体は削除されません。
- astroll に必要なライブラリ、ツール類(下記のリンク参照)のアンインストールは行われません。
astroll インストーラーの単体実行
- REHL6 の場合、/etc/init.d/配下にある、ファイル名が”ky_”から始まるファイルは全て削除されます。
- REHL7 の場合、/usr/lib/systemd/system/配下にある、ファイル名が”ky_”から始まるファイルは全て削除されます。

表 4-1 インストールスクリプト、アンサーファイル格納場所

概要	ファイル名	格納先
インストールスクリプト	astroll_installer.sh	/(インストール資材展開先)/astroll_install_package/install_scripts/
アンサーファイル	astroll_answers.txt	/(インストール資材展開先)/astroll_install_package/install_scripts/

4.1 環境削除手順の詳細

4.1.1 astroll_answers.txt を編集

以下の通りアンサーファイルを設定してください。

必須ではない項目は値が入っていても入っていなくても問題ありません。

表 4.1.1-2 アンサーファイル 設定パラメータ

種目	必須	初期値	説明
install_mode	○	Install	インストールモードの設定 [Uninstall]を入力します。
astroll_directory	○	—	インストールディレクトリ astroll がインストールされているディレクトリを絶対パスで指定してください。
ita_language	—	ja_JP	アンインストール時には不要な項目です。
Ita_OS	○	RHEL7	astroll の OS(RHEL6 系の場合は(RHEL6)/ RHEL7 系

種目	必須	初期値	説明
			の場合は(RHEL7))
db_root_password	○	—	MySQL の root パスワード
db_name	○	—	MySQL の DB 名
db_username	○	—	MySQL の DB ユーザー名
db_password	—	—	アンインストール時には不要な項目です。
ita_base	—	yes	アンインストール時には不要な項目です。
material	—	no	アンインストール時には不要な項目です。
create_param	—	yes	アンインストール時には不要な項目です。
hostgroup	—	no	アンインストール時には不要な項目です。
ansible_driver	—	yes	アンインストール時には不要な項目です。
cobbler_driver	—	no	アンインストール時には不要な項目です。
openstack_driver	—	no	アンインストール時には不要な項目です。
dsc_driver	—	no	アンインストール時には不要な項目です。

```

#Select install mode. ("Install" or "Uninstall")
# e.g) install_mode:Install
install_mode: Uninstall

#Enter install directory.
# e.g) ita_directory:/ astroll
ita_directory:/ astroll

# Select language. ("ja_JP" or "en_US")
# e.g) ita_language:ja_JP
ita_language:ja_JP

# Select Operation System. ("RHEL6" or "RHEL7")
# e.g) ita_os:RHEL7      アンインストール時は不使用
ita_os:RHEL7

# Enter the MySQL root user's password
# e.g) db_root_password:sample_root_password
db_root_password: sample_root_password

# Decide the database name, username, and password for astroll.
# e.g) db_name:sample_db_name
db_name:sample_db_name
# e.g) db_username:sample_db_username
db_username:sample_db_username
# e.g) db_password:sample_db_password
db_password:sample_db_password

# Select the target you need to install.
# yes : need
# no  : no need
ita_base:yes
material:no
createparam:yes      アンインストール時は不使用
hostgroup:no
ansible_driver:yes
cobbler_driver:no
openstack_driver:no
dsc_driver:no
ansibletower_driver:no

```

図 4.1.1 アンサーファイルのサンプル

4.1.2 astroll_installer.sh の実行

以下のコマンドにより、astroll のアンインストールを実行してください。

```
$(インストール資材展開先)/astroll_install_package/install_scripts/astroll_installer.sh
```

■処理の確認

アンインストールを実行すると astroll_installer.log に処理内容が出力されます。

ログファイル格納パス：

\$(インストール資材展開先)/astroll_install_package/install_scripts/log/astroll_installer.log